

2007年6月期

決算説明会

株式会社アイ・オー・データ機器
2007年8月30日

2007年6月期(P/L)<連結>

(単位:百万円)

	2006年6月期 金額 (構成比)	2007年6月期 金額 (構成比)	前年同期比較 増減額 (増減率)
売上高	70,087	61,765	▲8,322 (▲11.9%)
売上総利益	6,889 (9.8%)	6,776 (11.0%)	▲113 (▲1.6%)
販売費及び一般管理費	7,218 (10.3%)	6,821 (11.0%)	▲396 (▲5.5%)
営業利益(▲損失)	▲328 (▲0.5%)	▲44 (▲0.1%)	+283 -
営業外収益	276	512	+236
営業外費用	284	356	+72
経常利益(▲損失)	▲336 (▲0.5%)	111 (0.2%)	+447 -
特別利益	5	156	+151
特別損失	30	260	+230
当期純利益(▲損失)	▲549 (▲0.8%)	▲657 (▲1.1%)	▲107 -

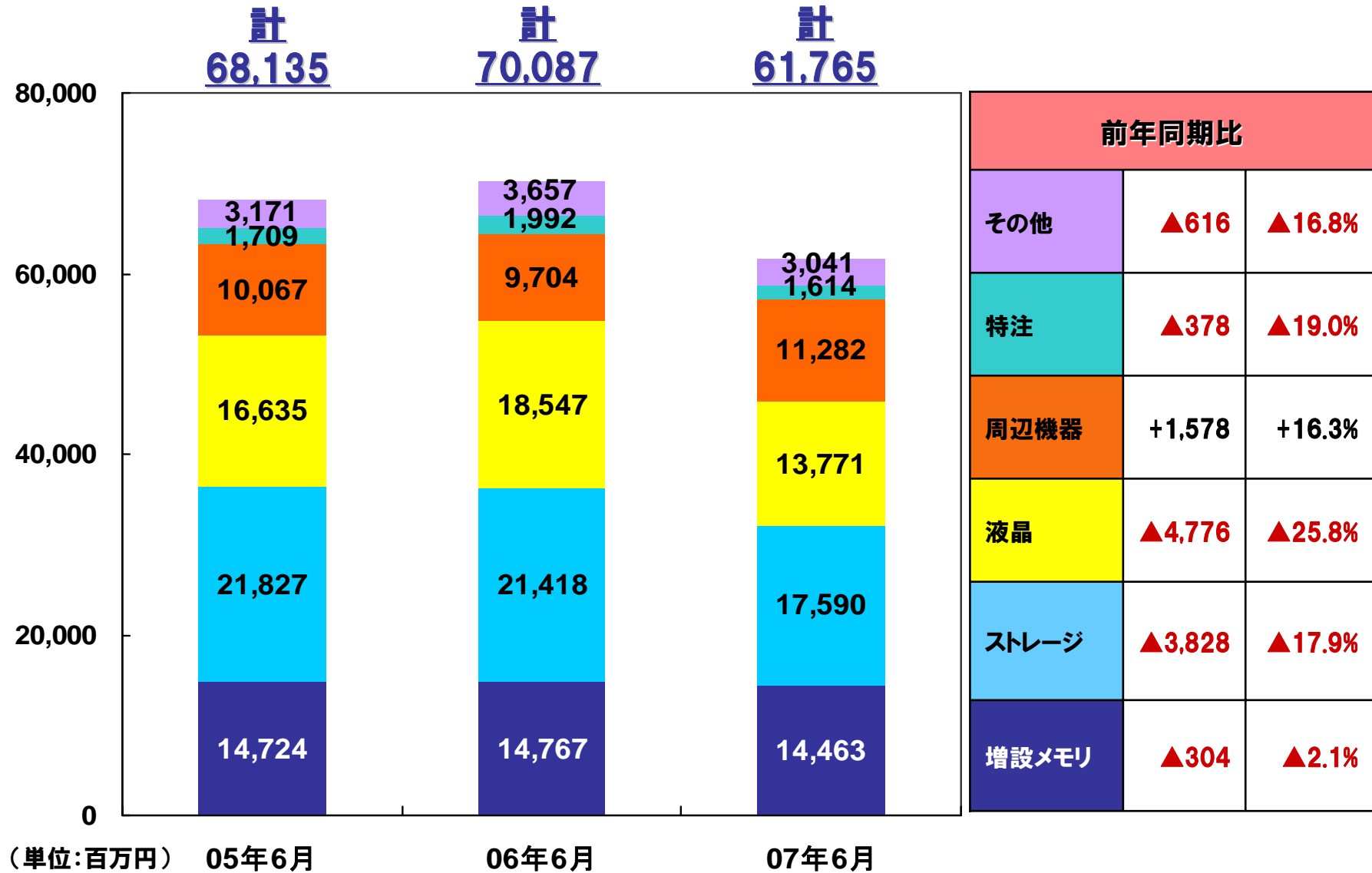
2007年6月期(B/S)<連結>

(単位:百万円)

	2006年6月期	2007年6月期	前年同期比較
(資産の部)			
流動資産	26,211	28,291	2,080
現金及び預金	3,913	6,477	2,564
受取手形及び売掛金	14,643	12,633	▲ 2,009
たな卸資産	6,431	6,478	47
その他の流動資産	1,223	2,700	1,477
固定資産	7,910	6,618	▲ 1,291
資産合計	34,121	34,910	789
(負債の部)			
流動負債	12,792	13,266	473
支払手形及び買掛金	8,372	10,351	1,979
短期借入金	3,000	741	▲ 2,258
未払法人税等	139	108	▲ 30
その他の流動負債	1,281	2,063	783
固定負債	679	906	226
負債合計	13,472	14,172	700
(純資産の部)			
株主資本合計	19,769	18,965	▲ 804
評価・換算差額等合計	641	1,500	859
少数株主持分	238	272	34
純資産合計	20,649	20,738	89
負債純資産合計	34,121	34,910	789

部門別の概況

部門別売上高(連結)



増設メモリボード部門

メモリ



⇒ 拡販の進展と、「Windows Vista」の発売が追い風となり、数量・売上ともに伸張させるものの上期のDRAM価格の上昇が利益を圧迫。下期に入り利益面も回復。

メモリカード



⇒ ワンセグ携帯の普及等により microSDカードの1GB、2GBを中心に需要が増加し、数量・売上ともに増加。

USBメモリ



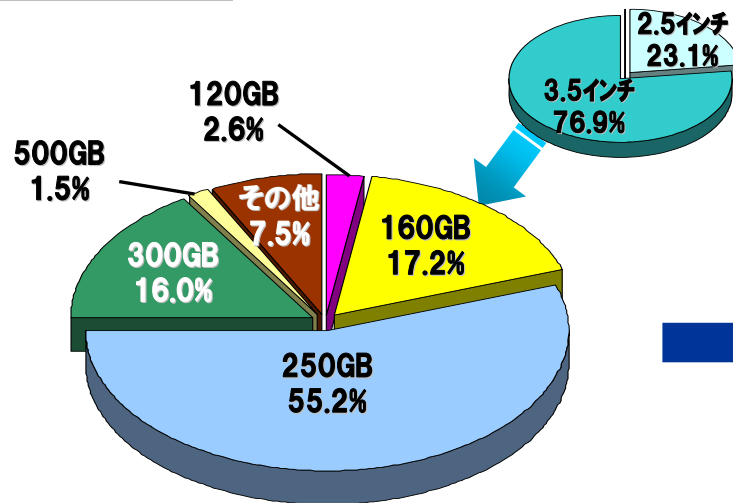
⇒ 競争の激化により、販売価格・数量ともに前期比大幅に減少。下期に入り、「Windows Vista」新機能対応製品を核にラインナップを刷新し、回復基調に。

ストレージ部門

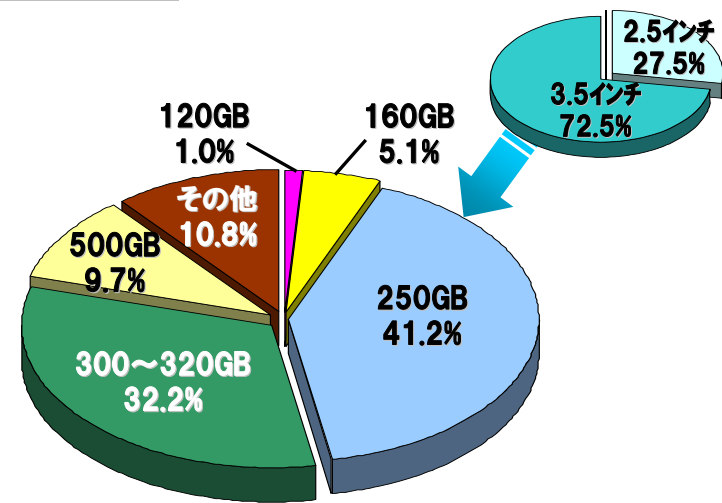
HDD製品 ⇒ 安定した増設需要を背景に
 数量は前期比で約3%伸長したものの
 単価下落により売上高は約10%減少。

<HDD製品 容量・インチ別数量シェア>

06年6月期



07年6月期



*3.5インチ外付／内蔵HDDを集計の対象とし、「その他」には、20GB~80GB、600GB~2.0Tを主に含みます。

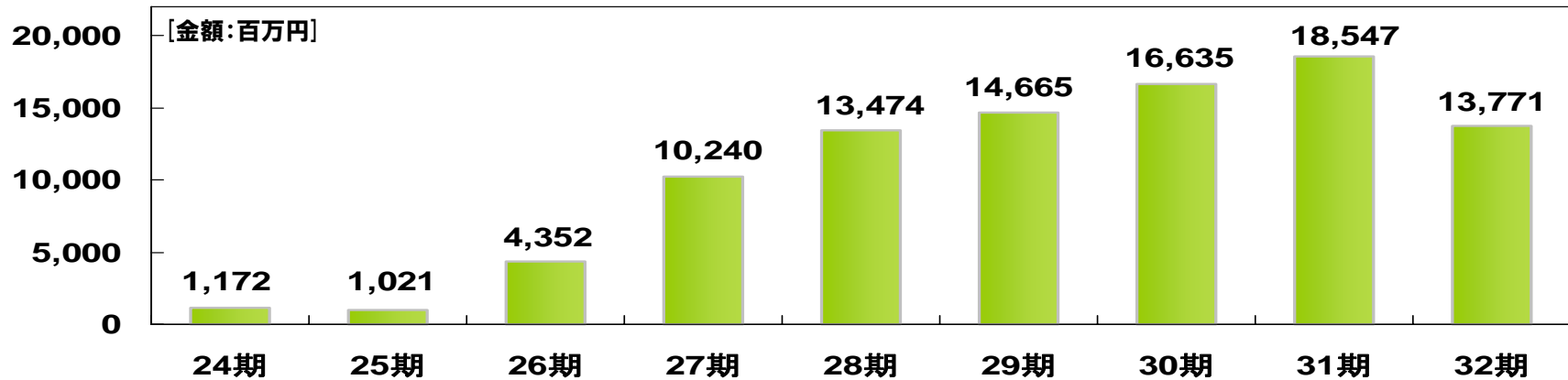
DVD製品 ⇒ DVD、MOはトップシェアを維持するものの
MO・CD-R/RW製品 ⇒ 次世代DVD製品の普及の遅れと、既存製品の
 マーケット縮小により、数量・売上ともに減少。

液晶部門

液晶ディスプレイ

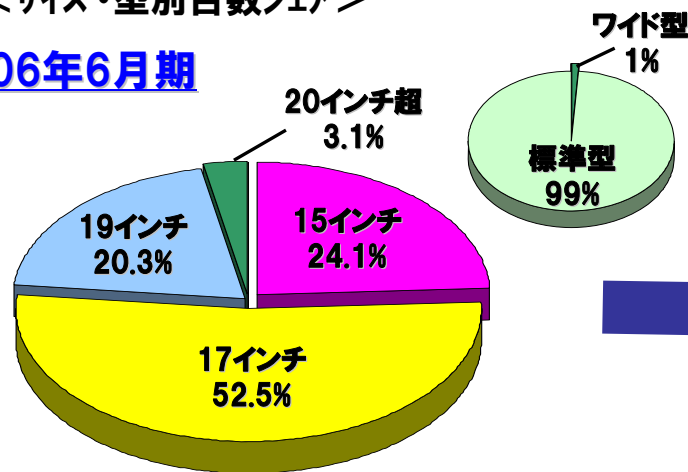
市場に先行した大型化やワイドフォーマット化を進めるもののPC需要不調の下、モニター増設需要は一時的に縮小。また、当社においては製造委託先に起因した製品の不具合問題も重なり、数量・売上ともに前期から大幅に減少。

<売上高（期末）>

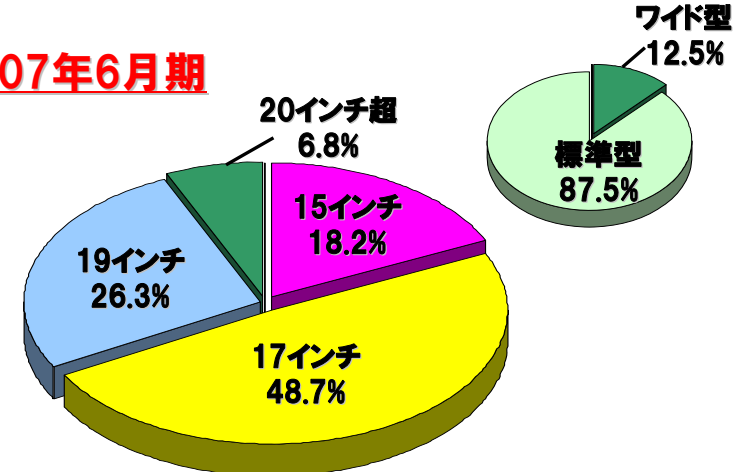


<サイズ・型別台数シェア>

06年6月期



07年6月期



周辺機器部門

マルチメディア

⇒ ワンセグチューナーが好調に推移するも
販売単価の下落により
売上は前期比で約4%減少。

ネットワーク・通信

⇒ PLC製品、LAN接続HDD製品が好調に推移し
数量・売上ともに増加。

AVeL製品

⇒ 従来までのパーソナルユース市場に
新たな用途市場向け展開が加わり
数量・売上ともに増加。

インターフェイス

⇒ マーケット縮小により数量・売上ともに減少。



2008年6月期の業績見通し

2008年6月期(P/L)予想<連結>

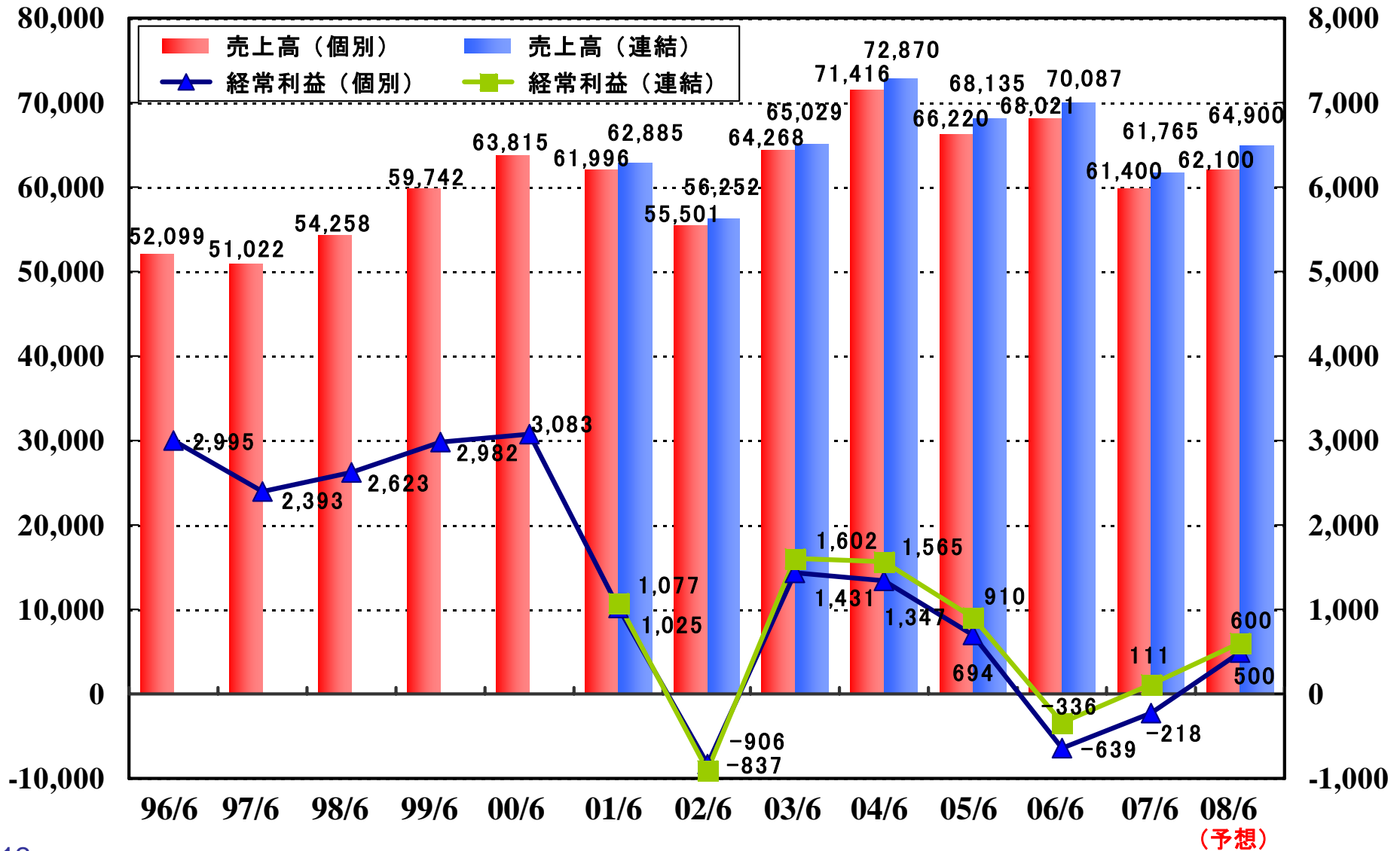
(単位:百万円)

	2007年6月期 金額 (構成比)	2008年6月期 金額 (構成比)	前年同期比較 増減額 (増減率)
売上高	61,765	64,900	+3,135 (5.1%)
売上総利益	6,776 (11.0%)	7,500 (11.6%)	+724 (10.7%)
販売費及び一般管理費	6,821 (11.0%)	6,900 (10.6%)	+79 (1.2%)
営業利益(▲損失)	▲44 (▲0.1%)	600 (0.9%)	+644 -
経常利益	111 (0.2%)	600 (0.9%)	+489 (440.5%)
当期純利益(▲損失)	▲657 (▲1.1%)	480 (0.7%)	+1,137 -

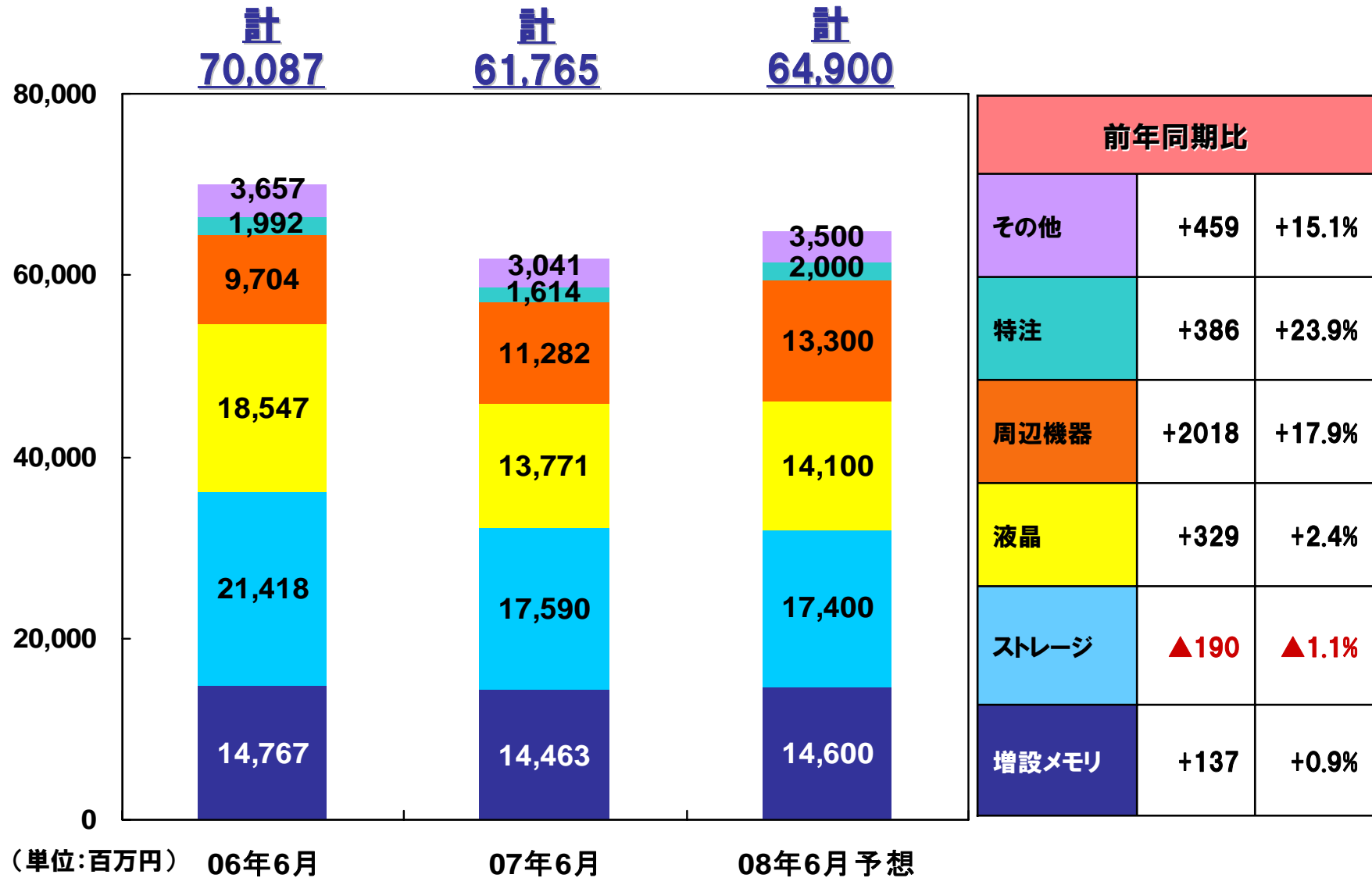
損益推移

[売上高] (単位：百万円)

[経常利益]



部門別売上高 予想(連結)



2008年6月期の展開

注力分野【1】～ネットワークストレージ

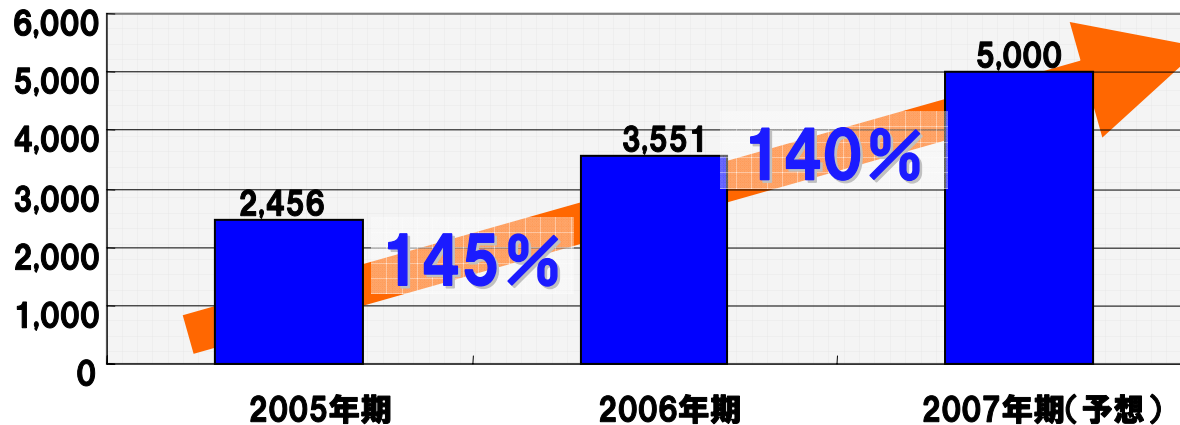
■市場拡大を背景に、着実な成長を目指します。

市場拡大
の要因

- ◆データ管理に対する法規制強化
- ◆保有データの事業活動における重要性の拡大
- ◆利用ユーザーの裾野の拡大(大企業⇒中小企業・SOHO・部門単位)

弊社NAS販売金額

(単位:百万円)



注力分野【1】～ネットワークストレージ



■家電メーカーとの連携強化により、AV家電周辺機器分野の基礎を固めます。(汎用NAS市場)

-リビングでの使用を意識したデザイン・コンパクトさ・操作の容易性を追求。

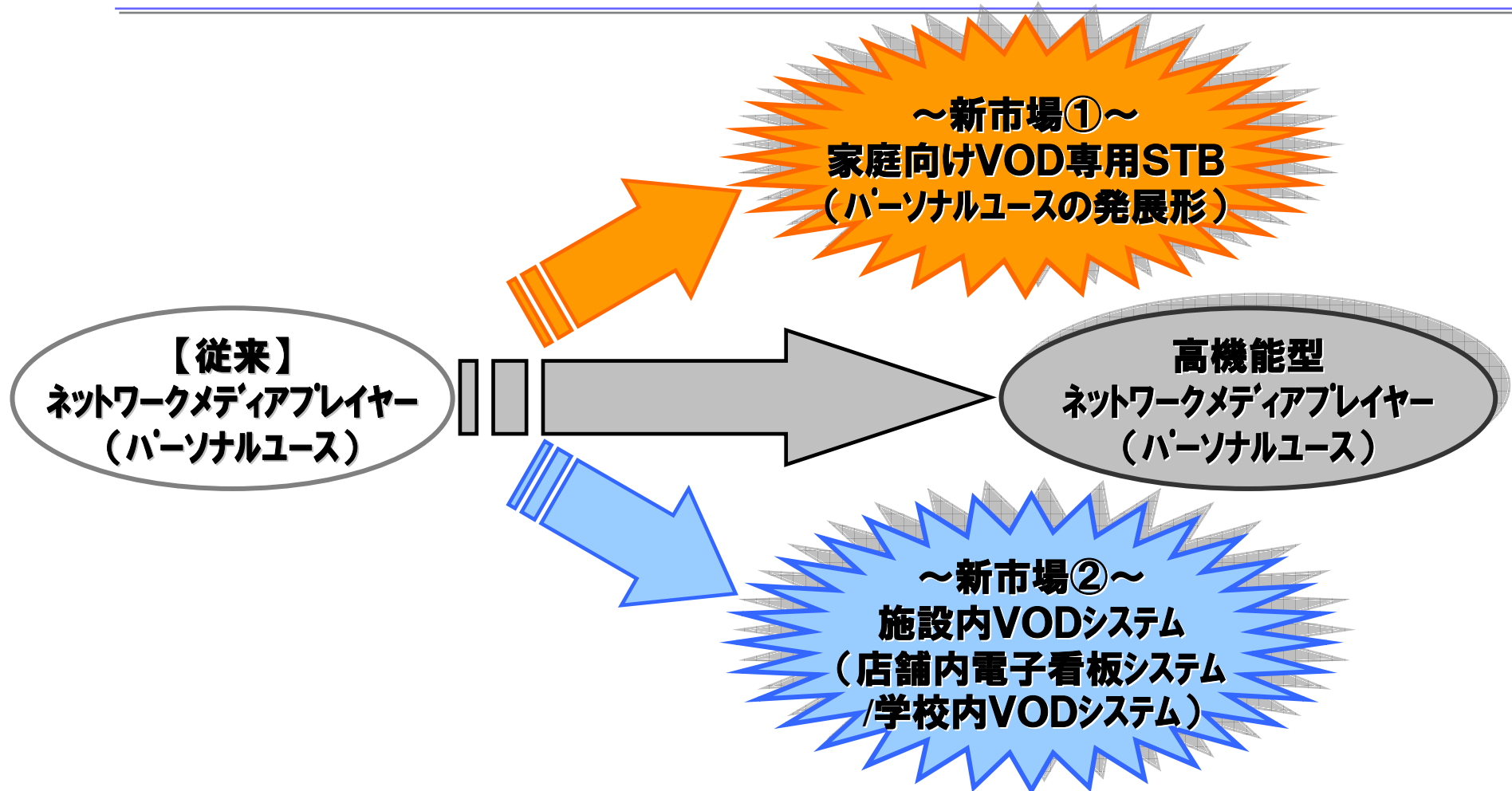
■設置後すぐに特定サービスが利用可能となる「ソフト・ハード一体型のソリューション製品」を展開し

法人向け新市場を創出していきます。(特定用途専用NAS市場)

-アプリケーション搭載型“NASBox”を展開。

-ソフト会社向けに“パッケージ化用NAS”としての販売拡大。

注力分野【2】 ～デジタル情報家電分野

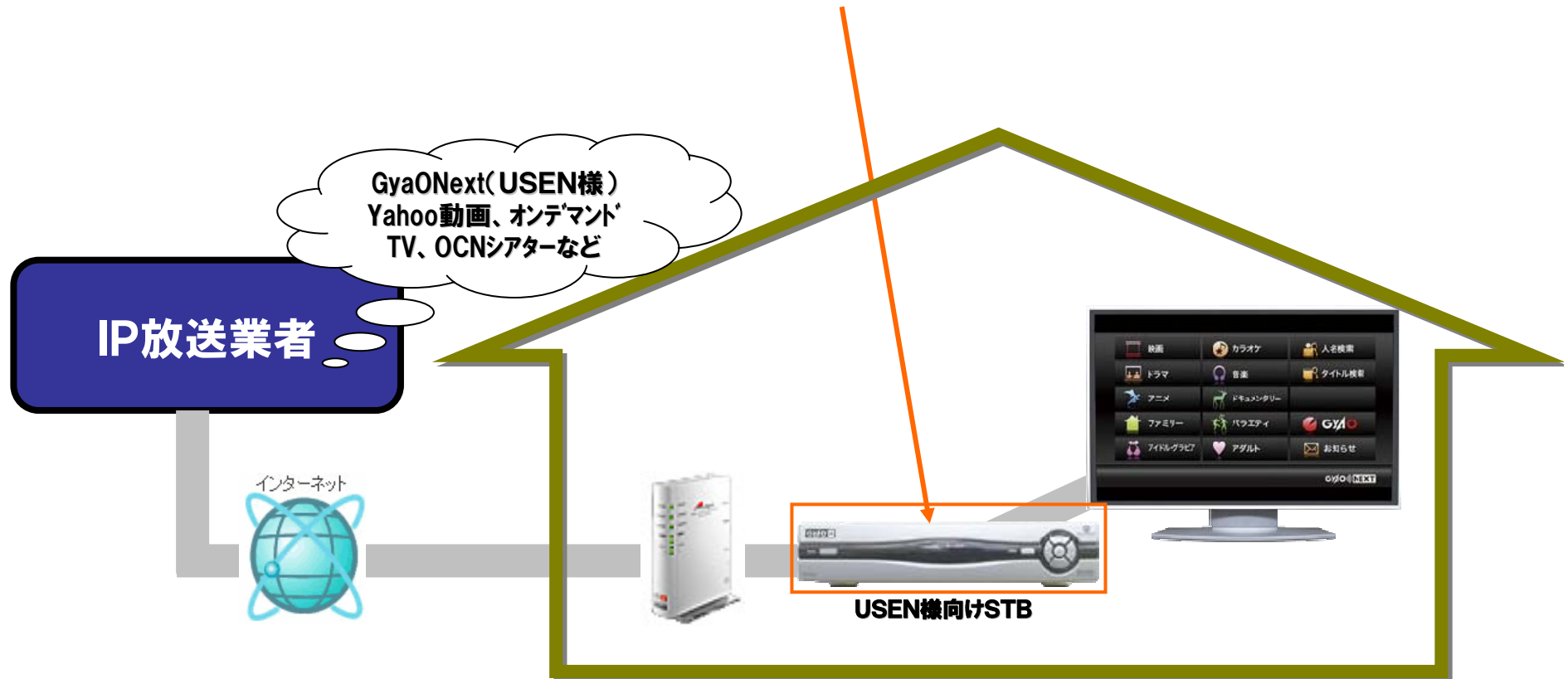


■AVeL分野に広がる新たな需要を捉えます。

- VOD専用STBやデジタルサイネージ用途など法人向けの新たなニーズに対し、これまでに培った技術・ノウハウを応用した製品・ソリューションを提供します。

新市場①：IP放送業者向け専用STB

◇今後市場の本格的立ち上がりが見込まれるIP放送分野において
USEN様のVODサービス“Gyao Next”専用STBに採用。



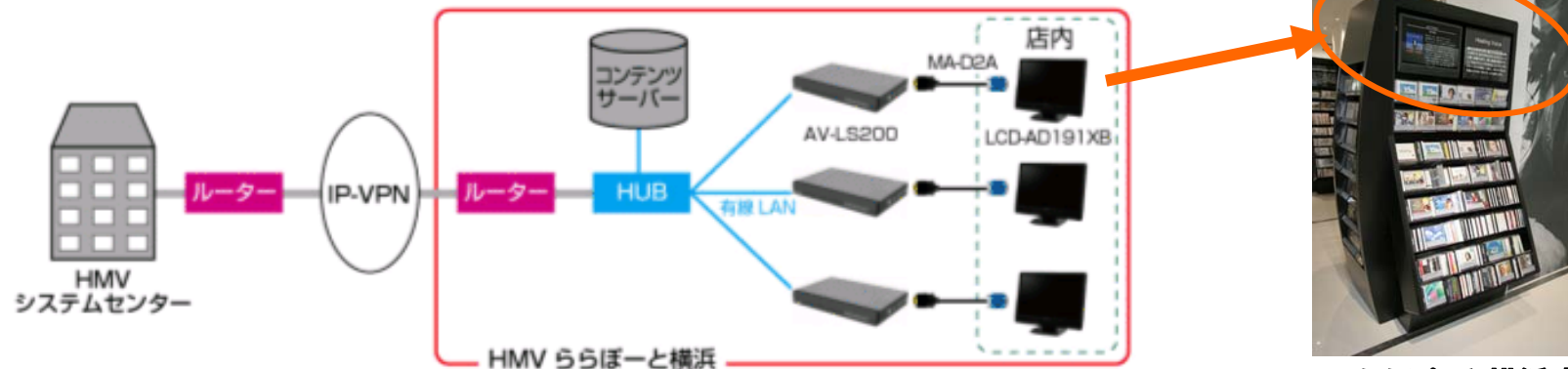
新市場②：施設内VODシステム

◇店舗・学校・ホテル等の特定施設内でのコンテンツ配信システム（VOD・デジタルサイネージ）の需要が拡大しています。

参考：学校向けVODシステム概要図



参考：HMV様向け電子看板システム概要図(導入済)



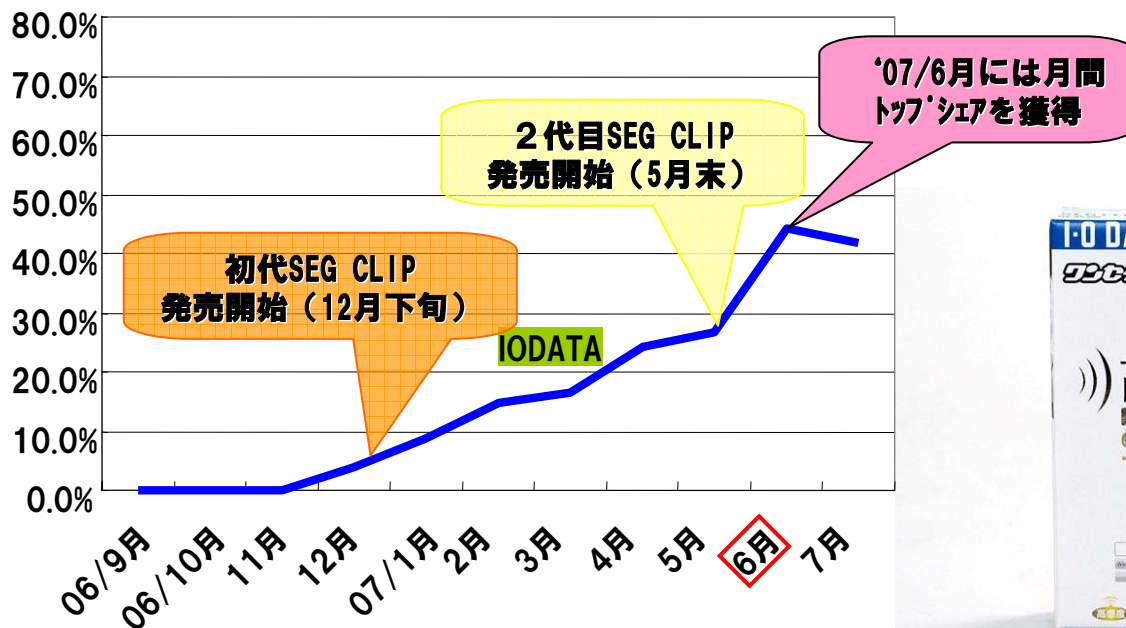
HMVららぽーと横浜店様

注力分野【3】～地デジ・ワンセグ製品

◆アナログTVキャプチャー市場で培ってきたノウハウを活かし ニーズを的確に捉えた製品展開をはかります。

- ワンセグ製品は、後発ながらも、市場の要求であった“高感度”を実現することでトップシェアを獲得。
- “フルセグ”対応製品についてもOEM供給を開始予定。

ワンセグチューナー販売金額シェア(BCNデータより)

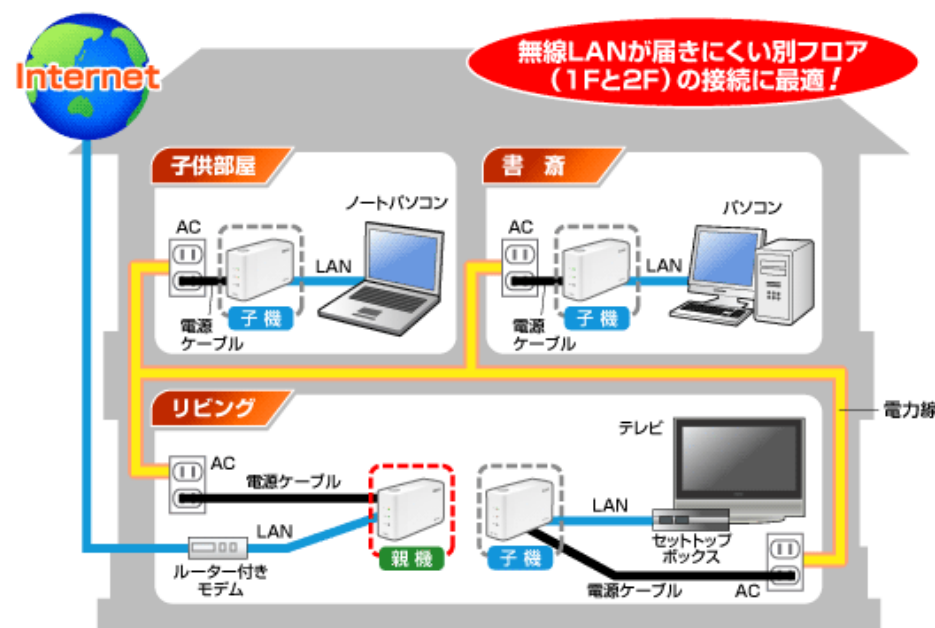
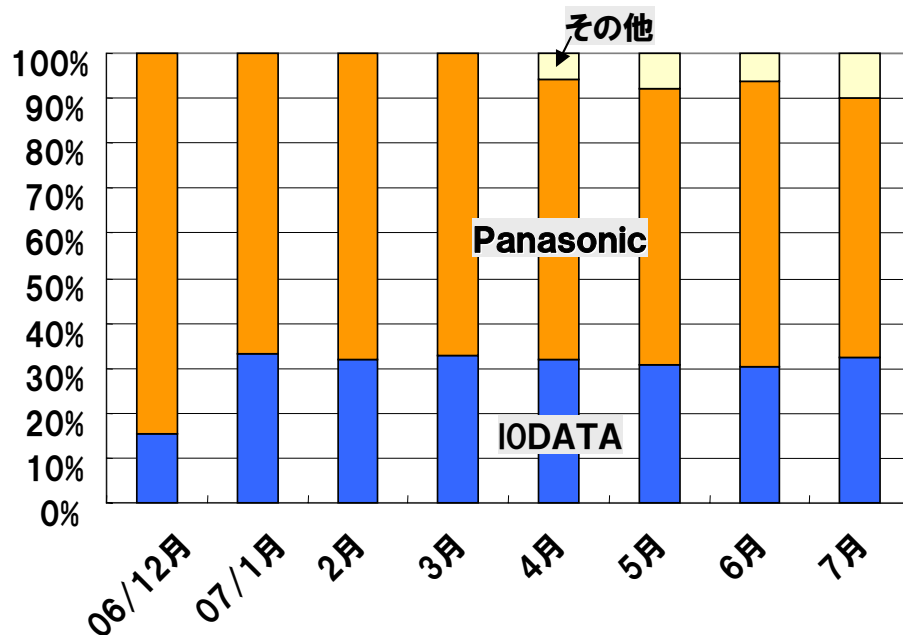


注力分野【4】～PLC

- ◆ Panasonicに次いでシェア第2位。('07.7時点、BCNデータより)
- ◆ 成長が期待される新市場の中で、先行優位性を生かしさらなる売上拡大を狙います。



PLC販売金額シェア月次推移(BCNデータより)





ご清聴ありがとうございました

<http://www.iodata.jp>